

昼 休 け い 【中学年 1 - 4】

- 葛藤に共感しながらねらいに迫る取組み -

- (1) 主題名 正しいことは、勇気をもって [1 - 4]
 (2) ねらい 正しいと考えることは、勇気をもって行おうとする心情を育てる。
 (3) 資料名 「昼休けい」
 (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 遊び方について話し合う。	休憩時間に、遊んでいて困ったことはありませんか。 ・友だちがその場からいつの間にかいなくなった。 ・ルールを守ってくれない。 ・いつも高学年が、真ん中で遊んでいて遊びにくい。	休憩時間中の不満について自由に出させる。
展 開	2 資料を読んで話し合う。	けんいちが、どんなことを考えながらピッチャーをしているでしょう。 ・試合に勝てるといいな。 ・楽しく遊びたい。 ・まりちゃんに打たせてあげたい。 ・打ちやすい球を投げよう。 まさしが「ファール3本はアウト」と言ったとき、けんいちはどう思ったでしょう。 ・はじめに言ったルールと違うよ。 ・ルールを守らないと楽しくないよ。 ・まさし君に注意をしようかな。	けんいちの気持ちにそって考える。 まさしに対して、注意しようか、どうしようかと迷うけんいちの気持ちをおさえる。
	3 勇気を出し、注意をした主人公の気持ちを考える。	勇気を出して注意をしたけんいちが、どんな気持ちだったのだろう。 ・胸がドキドキして、苦しかった。 ・言わなければよかったかな。でも、あのままじゃあ、しんちゃんがかわいそうだ。 ・まさし君が分かってくれてうれしい。	迷っているけんいちが勇気を出して注意し「言ってよかった。」という気持ちになったことに気付かせる。
	4 自分たちの遊び方を振り返る。	けんいちの行動をもとに自分たちの生活を振り返ってみよう。 ・注意をすることは、むずかしいけど大切だ。 ・ルールを守らないと楽しく遊べなかった。	「楽しく遊ぶためにはどうしたらいいのか。」について考えさせる。
終 末	5 教師の話を聞く。	・ルールを守って楽しく遊びたい。	これからの遊び方や生活の仕方について考えることができる話をする。

昼休けい

昼休けいになりました。

「けんちゃん、今日もフットベースボールをしようよ。」

けんいちたちは、いつものように六年生のまさし君たちといっしょに校庭へ元気よく出て行きました。けんいちたちの学校は全校児童七十名ほどの小さな学校です。休けい時間には、学年をこえてみんなでいっしょに遊んでいます。

「じゃあ、まさし君のチームからこうげきだね。」

けんいちたちのチームが、しゅびに着きました。今日は、けんいちがピッチャーです。バッターは、三年生のまりちゃんです。けんいちは、まりちゃんがけりやすいようにゆっくりボールをころがしました。でも、まりちゃんのけたボールは、続いて二球ファールになりました。

「まりちゃん、だいじょうぶだよ。ファールは何度けてもいいんだよ。ファール三本は、アウトじゃあないから。」

まさし君は、そう言ってまりちゃんをはげめました。けんいちたちも、うなずきました。まりちゃんは、けっきよくアウトになったけれどうれしそうな顔をしていました。

試合は、六対五のせっせんです。けんいちたちのチームが負けていますがぎやく点もかのうです。

「しんちゃん、いい球がきたらしっかりけてよ。」

けんいちは、二年生のしんちゃんをはげめました。まさし君は、力いっぱいボールをころがしました。でも、しんちゃんは、まさし君が投げるボールがはやすぎて何度もファールばかりです。けんいちは、

「しんちゃん、だいじょうぶだよ。いい球だけけてよ。」

と、はげめました。

しかし、何度けても、しんちゃんはファールするばかりです。

「はやくけれよ。」

まさし君は、だんだんいらしてきました。顔を真っ赤にしてボールを転がし続けます。でも、だんだんはやくなるボールを、

しんちゃんはけり返すことができません。まさし君は、
「何度投げればいいんだよ。次のファールで、ファール三本はアウトにするぞ。」

しんちゃんは、けり返したくても、球がはやくてけり返すことができずにおろおろしています。
すると、

「ファール三本アウトじゃないよ。最初に言ったじゃあないか。おかしいよ。」

と、けんいちが言いました。みんなシーンとなりました。けんいちのむねはどきどきしています。そのとき休けい時間が終わるチャイムがなりました。

そうじが終わった後、かいだんでけんいちは、まさし君とばったり出会いました。まさし君は、にっこりした顔で

「さっきはごめん。明日もいっしょにフットベースボールをしようね。」

と、話しかけました。けんいちも、にっこりわらって、

「うん、明日もいっしょにしようね。」

と、答えました。

活用に生かすための実践報告

「昼休けい」

1 主題の設定

・中学年になると、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。また、行動範囲も低学年とは違って広くなり、他学年とかかわりも増えるが、正しいことと知りつつ実行できなかったり、悪いことと知りつつ発言してしまう年頃でもある。本資料では、力関係からくる、「不合理・矛盾」を押しつけられた時に、なかなか正しいことを言いにくい場面で、勇気をもって「おかしい。」と言えたけんいちの行動から、正しいことが言えてこそ、学校生活が楽しくなることを考えてほしい。

2 指導過程の工夫

・本資料は、子どもたちの遊び方で困った経験と主人公の気持ちにどれだけ迫れるかがポイントだと考える。そこで、導入で、日常の遊びの中で困った経験がないか事前にアンケートを取ったものを使うことや休憩時間の様子をビデオにとり流すことも効果的だと考える。

・「心のノート」P24～P27を導入や終末に使うことも考えられる。

3 発問の工夫

・中心発問は、主人公のけんいちが正しいことを言おうかどうしようか迷いながらも、「おかしい。」と言えたときの気持ちを考えるところである。したがって、友だちやけんいちが何に迷っているのか、どうして迷っているのか

を明らかにし、その心情と自分をだぶらせて考えさせることが大切だと考える。そのためには、補助発問で、けんいちをとりまく他のみんなの気持ちをしっかり考えさせることが大切である。

4 児童の反応（授業後の感想）

・正しいことを言うことは、大切なことだけど、言いにくい。

・けんいちのハートは、大きくなった。

・おこって遊んでもおもしろくない。

・やっぱり最後は、注意をしてよかったんだ。

・これからは、正しいと思ったことは、言っていきたい。

5 実践者からの一言

・結末が「正しいことは、勇気をもって言う。そうすれば相手に気持ちが通じる。」と子どもたちが気付く資料とした。しかし、日常的な子どもたちの生活を見ていると「おかしい」と考えても注意できないことや言ったことで気まずくなることもある。このことは、子どもたちの成長過程では必要なことであり、このような経験を積み重ねることによって子どもたちは成長するものと考えている。大切なのは、問題が起こったとき、すぐに自分の気持ちを相手に返したり、受け入れたりできるコミュニケーション能力を養うことだと思う。日頃から子どもたちの様子や思いをしっかりと受け止めることのできる指導者でありたい。

（郷野小学校 柏森弘秋）